

## 実践② 中種子町立油久小学校

### 1 はじめに

本校は、鉄砲伝来とロケットの基地として知られる種子島のほぼ中心に位置する中種子町の東海岸寄りにあり、町内で最も歴史の古い学校である。児童数 14 人の小さな学校ではあるが、地域住民や保護者の学校への思いや愛情はとても深く、大きな支えのもとで教育活動を推進している。

読書活動を学校経営の重点として位置付けており、児童の読書への取組が課題として上がっていた学校の現状から、特にこの3年間は学校だけでなく、地域やPTAと連携した取組を工夫してきた。学校・地域・家庭が一体となった取組は子供たちの読書意欲を高め、郷土に根ざしたぬくもりのある活動となっている。

こういった多くの協力や実践に支えられ、本年度、県教育委員会より「子どもの読書活動推進優良校」として表彰していただいた。

### 2 地域やPTAとの連携

#### (1) 土曜の朝のお楽しみ「油っ久り（ゆっくり）タイム」

第2土曜日の朝は、全保護者・全職員が年間1回ずつ読み聞かせを行う「油っ久りタイム」を継続している。今年度で6年目となるこの活動は子供たちにとって、身近な人と触れ合いながら読書を楽しむことができる大切なひとときであり、親（大人）の思いが直接伝わり、本との距離が近づいたり、ジャンルを広げたりできる時間でもある。

昨年度末、5年目の節目を記念して、読み聞かせグループの名前を募集した。本をゆっくり味わう活動になるようにとの願いを込めて「油っ久り」に決定した。この活動の足跡は掲示や冊子に残し、日常の読書活動にも効果的に活用している。また、保護者の負担にならないよう、実施方法について話し合いをもちながら、柔軟に対応できるように工夫をしている。



読み手と本の掲示



読み聞かせ活動の記録誌

#### (2) 地域の素材や人材の活用

年2回開催される地域・学校協働活動会議の中で、油久校区がかつて昔話の宝庫であったことを知り、油久の昔話を子供たちに伝えたいと考え、校区や地域ボランティアの方に協力を依頼した。

校区の方が収集して下さった文献を地域ボランティアの方が方言の素語りにまとめ、子供たちや保護者（家庭教育学級の読書の学習会）に紹介して下さった。

今後は、紹介していただいた昔話を子供たちと文字におこし、言葉で表現し、伝承する活動にも取り組みたい。



方言による昔話

### (3) 油久小親子読書の日の実施とお宝本集の作成

毎月23日を油久小親子読書の日と定め、親子読書に取り組んでいる。読んだ本と感想等をカードに記録し、読書コーナーに掲示する。また、年度末に「お宝本」を1冊選び、全児童のお宝本集を作成して配布している。

この冊子を元に、お宝本紹介コーナーを設置したり、油っ久りタイムでの読み聞かせに活用したりしている。



全児童の「お宝本」集

### (4) 保護者の学びの場の設定

朝の読み聞かせの時間に保護者から「どんな本を読めばいいか悩む」、「こんな読み方でいいのか不安」という声を聞くことがしばしばあった。その声を受けて、家庭教育学級の活動と連携し、保護者向けの読書会を実施することにした。町立図書館の職員、地域ボランティアの方に協力をいただき、実り多い学習会となっている。



家庭教育学級「読書会」

## 3 校内の読書活動の推進

### (1) 子供たちの関心や読書意欲を高める展示の工夫

学校図書館は明るく開かれた空間であり、子供たちが入りやすい雰囲気であることはもとより、常に新しい情報を提供する場となっている。

例えば、3月11日の前には防災コーナーを設置し、防災グッズとともに東日本大震災や自然災害等に関連した本を展示し、メッセージを発信した。

このような季節や行事、時事問題などのテーマを取り上げたコーナーは、常に校内の情報源となり、子供たちの読書意欲につながっている。



学校図書館内の展示コーナー

### (2) ビブリオバトルの実施

今年度初の試みとして、2月に全児童参加のミニビブリオバトルを実施するための準備を進めている。保護者にも関心をもってもらえるように、冬休みを活用して、親子で書評の構想を練る流れを作り、当日のオープニングでは、保護者数名から小学時代のお宝本について本への思いとともに紹介してもらおう時間もつくる予定である。本を通して思いを語り、互いに感じ合える豊かな時間になることを期待している。

## 4 おわりに

本校の読書活動は、目立って大きな活動を行っているわけではないが、年間通し、また、伝統として受け継ぎ「続けていること」、地域や保護者と「つながっていること」、今できる工夫をしながら「つないでいること」が強みである。まだまだ模索しながら活動している途中ではあるが、学校・地域・家庭が一体となり推進していくことには、希望があると実感している。